

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所やまびこ学園（児童発達支援事業）		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 22日		～ 令和7年 2月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 14日		～ 令和7年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・親子通園であるため、療育の場で児の対応と一緒に考え活動することができる。	・サーキットの工夫をしています。 ○少し頑張ればできる ○日々小さな変化をし飽きない	・保護者同士の連携の深化を図る為に、30分程度おしゃべりの会を企画しています。毎月1～2回実施することで、保護者様からの会話が増え、ピアサポートできる状況になってきています。
2	・リハビリテーションの訓練士（PT/OT/ST）が経験豊かなセラピストであるため、在宅でできる内容を具体的に指導することができる・園で企画しOTはペアレントトレーニングを実施しています。	・ひとつひとつの活動内容が、どう発達支援につながっているかの意図をやまびこだよりで毎月発行し、小冊子に、まとめました。 ○コミュニケーション/親子体操/サーキット/おはようの会等	・重症心身障がいの児の受入れは行っているが、他児と同じ活動が困難な時の別メニューの提示や空間環境の案内ができると思います。
3	・専門分野を活かせる職員がいる。 ○理学療法士の免許をもつ児童指導員が、サーキット等の活動時に専門分野を活かした活動を提示できる。 ○小児科経験がある看護師がいるため、医療ケアを要する児の受入れが可能である。	・児童発達支援計画の内容から、スモールステップとして、日々の活動内容と結び付けた、保護者と共有の目標を立案しており、定期的に保護者様と振り返りをし、次のステップを一緒に考えています。	・もっと沢山の訓練を受けたいという希望がありますが、園でスケジュールした訓練日が限られているため、増やす事は困難です。登園日や日常生活上でできるリハビリ内容の提示ができ、日々実行できる工夫をしたいと思います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・古い建物であるため、個室等のスペースが少なく、空間環境の調整がしにくいです。	・協会全体での人材育成の遅れがあり、正規職員の専門職育成も遅延していると思われます。	・動画等を利用した学ぶ機会の充実や、人材育成を行うためのマニュアル等の作成が必要であると思います。
2	・離職や協会の他事業所への異動などがあり、正規職員が少なく、臨時やパート職員で補っています。現事業所での勤務年数が、4年～1年未満と短く、経験が少ないため専門的知識や経験を積む必要があります。	・各マニュアルの周知が不十分であり、浸透していないと思われる。避難訓練など、登園された時と保護者のみの訓練となっています。	・月に1回発行しているやまびこだよりに掲載し、各マニュアルの内容を項目毎に短い文章で、分かりやすく説明していく等工夫をしていく必要があると思います。
3			